

給食について、子どもたちの評価は

アンケート結果では、「大好き」「好き」が約7割と好評価を得ている



村上 誠

自由民主党田原市議員

学校給食と田原市給食センターについて

問 給食の内容の質や量について、子どもたちの評価は。

答 アンケート結果では、「大好き」「好き」と答えた子が約7割とおおむね好評価を得ている。

問 給食の残食は、量の指標になるが、どんな状況か。

答 毎日、クラスごと、おかずごとに集計している。平成30年度の県の平均残食率が4.9%であるのに対し、この3年間では1.2~1.3%である。

問 給食を通して、子どもたちに食材の知識を伝えていくことも大切と考えるが、先生との連携は。

答 子どもたちの給食の様子や感想を記入した連絡ノートで学校の給食主任と情報交換を行っている。



問 田原産の食材使用状況は。

答 食材使用率は約13%、使用量では約50%。

問 地域の農家からの直接購入は地産地消につながると考えるが、市の取り組みは。

答 地域の農家の会と情報交換し、旬の野菜など取り扱ひ量の増加に取り組んでいる。また、地元産の取り扱ひが増えるようにJ A愛知みなみや青果納入組合と検討している。

問 民間のノウハウを活用したPFI事業の成果は。

答 施設修繕への迅速な対応やバイキング給食やアレルギー対応など直営では実現が難しい給食を提供できている。

問 給食センター開始当初より給食数が減少しているが、調理器具などに無駄が生じていないか。

答 給食の調理は、決められた時間に行うため、調理器具の組み合わせや流れを考えながら有効に使用している。

問

交流人口増加につながる今後の博物館の運営は。関心が高い展示会を開催するだけではなく、さまざまな機関等と連携し魅力を高めていく。また、市内のイベントや他の施設、歴史、自然をつないだ情報を発信することで交流人口増加を担う。

【会派の構成変更】

2月1日付で「自由民主党田原市議員団」に異動しました。

仲谷政弘議員、長神隆士議員

鈴木和基議員、内藤浩議員

